

## 岡山県委託事業 「食べること、生きること」

岡山県と岡山大学病院、岡山大学歯学部が主催された「死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最期まで守る多職種連携口腔栄養関連サービスの推進事業」公開セミナーに理事長の中村が登壇しました。このセミナーは、地域の医療・介護の分野で食を支えるスタッフや学生、さらには食介護で悩みを抱えた一般市民を対象としており、今回で15回目を迎えました。開催当初からご縁をいただいているこのセミナーですが、毎回新たな気づきと刺激をいただきます。



## お雑煮回診

病気や障害により「おもちが食べたいけど食べられない」「食べさせるのがこわい」といった方にも安全にお正月気分を味わってほしいという思いから始まった【お雑煮回診】。今年も当院の食支援チームが頑張りました。「いつもは食が進まないのに、いい顔をしてペロッと食べました！」と嬉しいお声を沢山いただきました。食のことでお困りの方は是非一度当院の食支援チームにご相談ください。



## 復活!! つばさ連携の会

コロナまん延防止のため、長らく中止していた当院主催の「連携の会」を4年ぶりに開催します。今年は岡山会場と倉敷会場の2回に分けて執り行います！参加申込等は現在準備中です。皆様のご参加をお待ちしております！



つばさクリニック つばさクリニック岡山

定期訪問 午前9時～午後5時 緊急往診 24時間対応

診療科目 訪問診療・内科  
循環器科・呼吸器科・整形外科  
〒710-0047

岡山県倉敷市大島534-1  
TEL 086-424-0283  
HP: www.tsubasa-clinic.net

診療科目 訪問診療・内科・小児科

〒700-0026  
岡山県岡山市北区幸還町1-7-7  
TEL 086-254-0283  
www.tsubasa-okayama.net



令和6年

## 能登半島地震被災地支援

LINE



インスタ



### 01 JMAT おかやまとして被災地へ

被災地の医療支援などを行う為、日本医師会から各都道府県医師会に対し、JMATの派遣要請がありました。当院もその呼び掛けに応じ、1月25日から2月12日にかけて3チーム(計11名)がJMATおかやまとして被災地支援へ向かいました。

期間

1/25～2/12  
うち、11日間

派遣人員

医師:2名  
看護師:4名  
その他:2名

### 02 JMATって何?

JMAT (Japan Medical Association Team) は、被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を回復し、地域医療の再生を支援することを目的とする。(引用:日本医師会)

発災直後の救助活動を担うのが目的ではなく、避難所等で医療を提供したり健康管理を行っています。被災地の医療機関へその役割を引き継ぎ、地域の医療が復興するまで支援を行っています。



### 03 活動記録【私たちが担った役割】

JMAT本部にて、避難所等の現場で活動する部隊の派遣調整や情報の統制・整理を担いました。



壁に貼られた紙に現場からもたらされた情報を書き留めます。



会議やミーティングが多数あり

各部隊から現場の様子や被災者の状況、新たに開設された避難所の情報が寄せられます。それらを一元管理し、見える化していきました。

### 04 被災地支援はまだまだ続く

未だ多くの被災者が避難所生活をされており、JMATおかやまの支援活動も継続しています。被災された皆様が1日でも早く平穏な生活に戻られますことを心よりお祈り申し上げますと共に、当院として出来る支援を継続してまいります。





## 想いでエピソード

つばさクリニック 看護師 仁木 亜由美

私が在宅医療に関わった「やりたい!という思い」を実現した患者さんのエピソードを紹介します。

その患者さんは80代の女性で、急性白血病の終末期の方でした。私がお会いしたのは、初診前の事前説明に伺った時でした。その時に娘さんから、「お風呂が好きだったので何とか入らせてあげたい」との思いをお聞きしました。

この時点で、患者さんの容態は決して良いわけではありませんでした。病院勤務の長かった私にとっては、状態が不安定な場合は体調の面を考え入浴をしない事が当たり前だったので、この方にとっても入浴は無理だろうと思っていました。しかし、その思いを実現するため、主治医の井戸先生と介護の方々で連携し、なんと翌日には訪問入浴サービスの準備ができました。入浴の日は当院も立ち会いました。当日も容体は変わらず不安定でしたが、いざ入浴が始まると患者さんは、気持ち良さそうな表情をされておられました。後日聞いた話だと、翌日にお孫さんや近所の方が会いに来られた時も、とても素敵な笑顔で入浴できた事を嬉しそうに話されていたそうです。患者さんの希望で2日後も訪問入浴をされました。入浴後に診察に伺ったのですが、顔色が大変良くなっており、事前説明の時に伺った患者さんとは全く違って見えました。入浴をしたこの数日間は、大きな体調の変化もなく、穏やかに過ごされたそうです。

後日、患者さんはお亡くなりになりましたが、娘さんから「お風呂が大好きだったので、自宅に帰りお風呂に入れて、母は大変満足していました」と話して下さいました。この患者さんの事を思い出すと、「やりたい!という思い」を支える事の大事さを痛感しました。そして、住み慣れた家だからこそ実現できる事があるという事に気づきました。



## 豆知識

### ソーシャルワーカーの

### ～福祉避難所～

今年1月1日に石川県能登半島を中心とした能登半島地震が発生しました。不安な日々を過ごされている皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。さて、ここ数年でこのような大規模な自然災害が相次いで発生しています。皆さんは、災害が起こった際に利用する避難所のひとつに【福祉避難所】というものがあることをご存じでしょうか? 災害が起きた時は、まず最寄りの小・中学校や公民館などの一般指定避難所へ避難します。その後、一般避難所での避難生活を続けることが難しい高齢の方や障がいのある方などが避難生活をおくる2次の避難所が【福祉避難所】です。高齢者福祉施設や障害者支援施設等の中に開設され、障がい者用トイレやスロープ、手すり等の設置や相談員の配置など福祉的配慮がなされています。

各市区町村より対象施設へ要請の上、その施設自体の被災状況や施設職員の充足具合、スペースの確保など、受け入れ体制が整った段階で開設されます。そのため、開設までに時間を要する場合や、状況によっては開設されない場合もあります。福祉避難所への避難方法については、各市区町村で対応や対象が異なります。「もしもの時の」備えとして、お住まいの市町村のホームページで福祉避難所について一度ご確認ください。



## Dr. 岡田の南極物語リターンズ



### 第17回：ギリギリの精神状態（前編）

前日まで続いたブリザードが明けた1月13日の朝、事件が起こりました。地吹雪は残っていたものの、前日より風は弱まっていたため、朝食後に全員で出発準備をする段取りとなりました。しかし食事をしている中、何故かB隊員の姿が見当たりません。僕が外へ探しに行くと、一人で給油をしている姿を発見。「なぜ勝手に給油しているのか」と尋ねたところ、「先に準備をしていただけだから、問題はない」とB隊員は笑いながらの返答。この言葉に僕の怒りが爆発しました。「勝手な行動をするな。すぐに戻れ!」と、皆が食事をしている雪上車に連れ戻しました。ただ給油していただけなのに、僕はなぜ怒ったのか? 南極は危険な環境下にあるため、南極観測隊ではスケジュールを厳守し、野外では決して一人で行動しないことが原則になっています。実際、過去日本南極観測隊で唯一亡くなった事例はブリザード中に一人行動した際の遭難死でした。僕は医療隊員として隊員の健康を守ることが一番の責務であり、これまでケガや病気に繋がる行動には厳しく注意してきました。B隊員は一人行動をとった上に、注意後に笑ったその態度が許せなかったのです。ストレスマックス状態の中、果たしてどうなるのでしょうか? (後編に続く)



在宅生活をサポートする  
医療・介護サービスのご紹介

地域密着型  
療養通所介護



岡山ダイナーシング看護協会 石原 美代子  
管崎 仁美

#### サービスの紹介

当事業所は、医療処置の必要な方、難病やがん末期の方で常に看護師の観察が必要な方を対象としている地域密着型のデイサービスです。食事、入浴、排泄等のケア、生活リハビリ、レクリエーション、医療処置などを提供しています。

「我が家で暮らし続ける」を支えることを理念とし、安心とおだやかな時間を共に過ごせるケアをめざしています。その方のかかりつけ医や訪問看護と連携をとり、安心してご利用して頂けるようにしています。また、ご家族の介護負担を軽減し、在宅生活の継続ができるように支援します。

#### 事業所の特徴

認定看護の資格のある看護師をはじめ充実した看護体制をとっています。お迎えの時には看護師が利用の可否を判断してお連れします。通常のデイサービスの利用が困難な方も安心してご利用いただけます。個別に配慮したケアを提供することが特徴です。



公益財団法人岡山県看護協会  
岡山ダイナーシング看護協会

〒703-8251 岡山市中区竹田 155-7  
TEL 086-901-1373